

ウマノミツバ（馬之三つ葉）セリ科ウマノミツバ属＊花期＝7～8月

名前の由来＝人の食用にならず、せいぜい馬に食べさせる程度のミツバ、と言う意味。

日本全土に分布している多年草、山地の林縁の木陰などに生育している、今回はケーブル山頂駅の前の植え込みの日陰に生えていた。良く枝分かれして葉は3裂してさらに2裂して掌状に5列状になることもある、裂片は浅裂して鋸歯になる。

＊花言葉＝自由・愛



エノキグサ（榎草）トウダイクサ科エノキ属＊花期＝7～10月

名前の由来＝葉の形状が榎の木の葉に似ている所から。

日本全土に分布、日当たりの良いところを好み、道端や畑に生育している、特徴は葉腋についている花の総苞がハート形になっている、葉腋全てについていることです、1年草で葉は互生。トウダイクサ科で毒性があるので食べることは出来ません。今回観察したのは、山頂ケーブル駅前の歩道の隅にはえていました。

＊花言葉＝幸先が良い。



キツリフネ（黄釣舟）ツリフネソウ科ツリフネソウ属＊花期＝6～9月

名前の由来＝花姿が帆掛け舟を吊り下げたような形に見え、「釣船草」に似ていた黄色の花を咲かせることから。北海道～九州のやや湿ったところに自生、茎はやや赤味を帯びて節が膨らんでいる、葉は互生、葉の下から細長い花序が伸びてその先に3～6cmほどの横長で黄色の花が釣り下がるように咲く、花弁状の萼と唇形の花びらを持ち、距が長く筒状になっている、＊花言葉＝私に触らないで・期待・安楽・じれったい。私に触らないで、と言うのは、熟した種子に触るとホウセンカの様にはじけ飛ぶ所から来ている。



ミヤマトウバナ（深山塔花）シソ科トウバナ属＊花期＝7～9月

名前の由来＝機織りの際に使う六角形の糸巻き「苧環（おだまき）」距が長く伸びた筒状の花姿が、中心が空洞になっているこの道具に似ていることから。ミヤマは山岳地域に自生しているから。ヤマトウバナとの違いは、茎頭頂部にまとまった白い花を一段のみ咲かせ中部地方以西。ミヤマトウバナは北海道～近畿以北輪生の花序が数段付く、花色は極薄い紅紫色、イヌトウバナを基本とした変種、

＊花言葉＝私を閉じ込めないで・人間味のある。



オカトラノオ（丘虎の尾）サクラソウ科オカトラノオ属＊花期＝6～8月

名前の由来＝丘陵の育成していて、花穂の先端が虎の尾の様に垂れ下がっているから。

北街道～九州の丘陵地帯の日当たりのよい草地などに生える多年草、地下茎を長く延ばして増える、茎には短毛がまばらに生え、基部は赤味を帯びる、葉は互生、花は総状花序で白い小さな花を多数つける。根を延ばして増やすので群生しているのが多い。

＊花言葉＝忠実・清楚・誠実・清纯・優しい風情・騎士



ダイコンソウ（大根草）バラ科ダイコンソウ属＊花期＝7～8月

名前の由来＝根生葉の小葉が大小交互につく様子がアブラナ科のダイコン（大根）の葉ににているところから。名前にダイコンが付いているので、同じ仲間と思われるかもしれませんがまったく別の品種です、ダイコンソウはバラ科、ダイコンはアブラナ科で花弁4ダイコンソウは北街道南部～九州の山地の林下に生育、薬用として利尿剤や打ち身に、食用として和え物や天ぷらとして美味しく食べられる、ちなみに、ギリシャ語では「美味」と言う名前です。＊花言葉＝満ちた希望・将来有望・前途洋々。



ウリハダカエデ（瓜肌楓）ムクロジ科カエデ属＊花期＝5～6月

名前の由来＝樹皮の青緑色が瓜の膚に似ているところから。本州～九州の山地のやや湿った谷間や緩やかな斜面に生える、標高1500mぐらいまでの所で生育、若木は暗緑色で黒い縦縞が入り菱形の皮目が点在する、枝は緑色で無毛、雌雄異株、種子は翼種で7～10月ごろに熟す。

＊花言葉＝遠慮・上品・舞い、



その他、以前に紹介、多くあった植物、・ハエドクソウ・ヤブカンゾウ・ヘクソカズカ・ヒルガオ、等々